

1. 基本情報

- (1) 国名：コートジボワール共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名
ヤムスクロ自治区，ブアケ県（人口約103万人）
- (3) 案件名：ヤムスクロ及びブアケ変電所整備計画（The Project for Reinforcement of Substation in Yamoussoukro and Bouake）

- (4) 計画の要約：

本計画は、ヤムスクロ自治区及びブアケ県に変電所を新たに整備することにより、増加する電力需要への対応及び未電化地域の電化を図り、もって社会経済活動の活性化及び地域住民の生活環境の改善を促進するもの。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

コートジボワールは、西アフリカ経済通貨同盟（UEMOA）経済の4割を占める西アフリカ地域の大国であり、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）経済圏の安定・発展・地域統合の鍵を握るという重要性に鑑み、復興期にある同国への支援を通じ、社会安定、貧困削減、格差是正を行う必要がある。本計画は、TICAD7の機会に我が国が発表した三重点地域のうち、西アフリカ「成長の環」の質の高いインフラ投資に資するものであり、同コミットメントの達成に貢献するものである。

- (2) 当該国における電力セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

当国政府は、国家開発計画（2016-2020年）において「人的資本強化及び社会福祉の拡充」及び「産業化による経済構造の転換推進」を重点戦略に掲げ、住民の生活環境の改善及び持続的な成長を支えるため、2014年時点で40%の電化率を2020年までに77%まで引き上げることが目標としている。同目標を達成するため、政府は①発電設備容量の増大、②送配電網の延長と変電所整備を計画している（電力マスタープラン（2015年6月策定））。発電容量は民間投資により着実に増えており、電化率も全国平均で64%まで上がったものの、都市部98%に対し地方部は38%に留まり、格差が大きい（SEforALL, 2019）。本事業対象地域の主要都市である首都・ヤムスクロ市及びアビジャンに次ぐ第二の経済都市・ブアケ市では、近年の経済成長に伴い、人口が年2.7%前後で増加しており（政府統計資料, 2007-2010年）、電力消費量も増加傾向が続くと予想されているが、送変電設備の不足により需要に十分応えられていない。また、ヤムスクロ自治区及びブアケ県村落部では未電化地域が330箇所存在する。なお、ブアケ県は内戦時に反政府勢力の拠点となった地域で、社会インフラ整備の遅れなど、紛争の影響が色濃く残る地域でもある。本計画は、変電所を新たに整備することにより、増加する電力需要に対応するとともに、未電化地域の電化を図り、もって社会経済活動の活性化及び地域住民の生活環境の改善を促進するものであり、電力マスタープランの優先事業に位置付けられている。

3. 計画概要

(1) 計画概要

① 計画内容

ア) 施設, 機材等の内容: 現時点では以下を想定。事業規模に応じて, 複数案件に切り分ける可能性がある。

【施設】 ヤムスクロ変電所及びブアケ変電所建屋

【機材】 ヤムスクロ変電所及びブアケ変電所 (双方とも 225 kV/33 kV, 225 kV/15 kV) 開閉設備一式, 変圧器一式

イ) コンサルティング・サービス, ソフトコンポーネントの内容: 詳細は協力準備調査で確認する。

ウ) 調達・施工方法: 詳細は協力準備調査にて確認する。

② 期待される開発効果

増加する電力需要への対応及び未電化地域の電化 (電力供給量: 66MW (2019年実績値) →98MW (事業完成 3 年後)) により, 対象地域における住民の生活環境改善及び社会経済活動の活性化への貢献が見込まれる。(詳細は協力準備調査にて確認)

③ 計画実施機関/実施体制 石油・エネルギー・再生エネルギー省, 電力公社

④ 他機関との連携・役割分担 特になし

⑤ 運営/維持管理体制 民間受託会社コートジボワール電力会社が運営・維持管理を担当。電気技術者が配置され, 送変電・配電施設等の運用経験が豊富なため, 維持管理は可能と考えられる。

(2) その他特記事項

- 援助機関動向: 世界銀行がアビジャンと主要都市の配電網改修整備及び地方電化 (南西部) を支援, アフリカ開発銀行がサンペドロ-ソブレ間送電線整備及び地方電化 (西部) を支援, フランス開発庁は地方電化 (南部・中部) を支援, 中国輸出入銀行は南西部・北東部の送電線整備を支援。本計画との重複はない。
- 環境社会配慮カテゴリ分類: C (環境への影響は最小限であると判断される)
- ジェンダー分類: GI (ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件)
- 紛争影響による不安定要因: 当国は 2002 年から約 10 年にわたり内戦状態に陥り, 公共サービス機能が低下し, 貧困及び地域間格差が拡大した。2011 年の内戦終結後, 国民和解や社会統合が進められているが, 景気や治安の悪化によって紛争状態に逆戻りするリスクを抱えている。本計画は, 地方電化を通し格差是正を促進することで, 同リスクの低減にも貢献する。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

ネパール連邦民主共和国向け無償資金協力「新カワソティ変電所建設計画」(評価年度: 2011 年) の事後評価等では, 変電所建設事業においては, 事業に接続する送電設備の建設スケジュールを十分調査すべきであるとの指摘がされている。本計画で整備する変電所は新たに円借款事業で整備する予定の 225kV 送電線に接続するため, 協力準備調査の中で, 先行する同送電線整備の建設スケジュールと調整し, 引込み工事の時期や業者契約等を含む詳細なスケジュールの確認及びフォローを行う。

以 上

[別添資料] 地図

ヤムスクロ及びブアケ変電所整備計画 地図



出典：コートジボワール電力公社提供資料